

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	7月～9月	4月	5月	6月
長期国債10年物(%)	1.60 ～2.20	1.780 ～2.000	1.795 ～2.005	1.745 ～1.955
円ドル相場(円)	108 ～120	114.09 ～118.80	109.02 ～114.03	111.43 ～116.63
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,400 ～1,700	1,700.15 ～1,783.72	1,574.45 ～1,763.76	1,439.00 ～1,606.11

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

好調な企業業績感、高水準の企業収益を背景に設備投資は底堅く、個人消費も雇用所得環境の改善により堅調を維持するものの、IT生産循環のピークアウトと米国景気の小幅減速に伴う輸出の増勢が次第に鈍化するため、回復ペースも若干ながら鈍化すると予想します。

(米国)

設備投資は底堅い動きが見込まれるものの、住宅投資および住宅市況のピークアウトや、これまでの継続的な利上げやガソリン高止まりにより、個人消費中心に緩やかながら鈍化すると予測します。一方インフレについては、資源価格の上昇や一段のドル安による川上からのインフレ圧力と資源利用率の上昇から、コア物価指数にも当面上昇圧力がかけられますが、次第に住宅市場の減速傾向が帰属家賃の上昇圧力を緩和することなどから安定圏内での推移が続くと考えます。

株 式

(国内)

根強い景気回復期待に下支えされるものの、米国経済の減速度合いが持続可能なペースへの鈍化にとどまることが確認されるとともに米インフレ指標に落ち着きが見られるまでは、外人投資家の買いも控えられやすく、当面上値が重く、ボラティリティーの高い展開を予想します。

(外国)

米インフレ懸念や景気減速懸念が急速に高まったことで株価は調整傾向となっていますが、ある程度織込まれたことから目先的には更なる下振れリスクは限定的だと考えます。ただし、住宅市況減速による個人消費への影響を見極めようとする動きが今後いっそう強まる点や、年後半にかけての企業業績においても高水準のエネルギー価格やこれまでの利上げによる影響が予想以上にネガティブに働く可能性もあり、当面株価の上値は限定的と予想します。

債 券 ・ 為 替

(債券)

(日本) 長期金利は、米国の景気先行指標に減速の兆候が見られるものの国内経済は当面持続的拡大を継続する中、ゼロ金利解除を受けて緩やかながら上昇すると予想します。

(米国) 長期金利は利上げの最終局面を迎え、米景気が緩やかに鈍化するため金利にも低下圧力がかかるものの、インフレ懸念は根強く、横ばいでの推移を予想します。

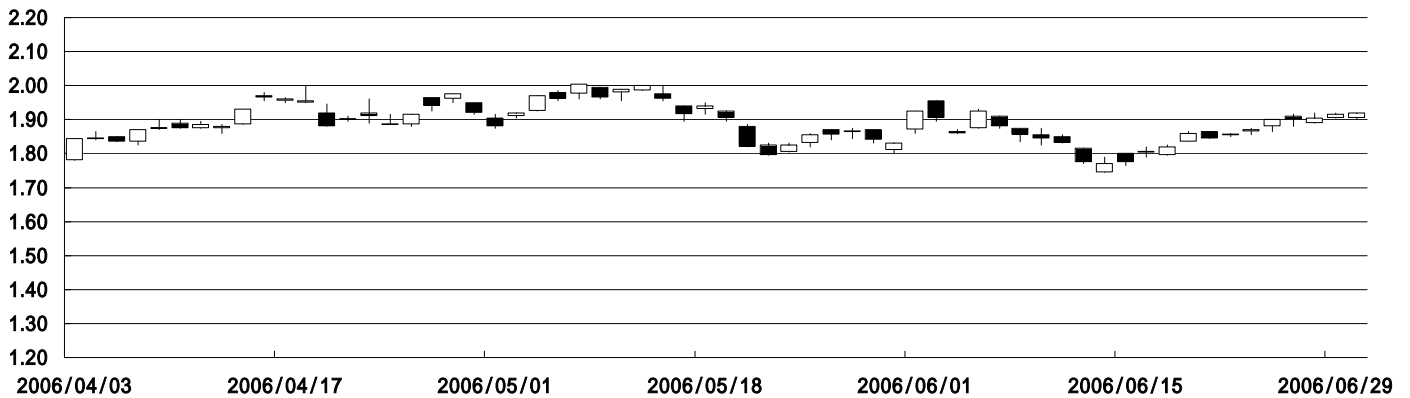
(為替)

足許、G7後の米対外不均衡是正に伴う急速なドル安の調整でドルが反発していますが、米インフレ懸念による追加利上げ観測とそれに伴うリスク資産のドルキャッシュへの回帰による一時的な要因も大きいと考えます。引き続き、日米の絶対的な金利差から日本からの対外投資は、個人中心に底堅い動きが見込まれるものの、今後は米景気の緩やかな減速に伴う利上げ打ち止め観測、中間選挙に向けて保護主義の強まりや米対外不均衡問題の再燃の可能性もあり、更なるドル反発も限定的で、方向感のない展開を予想します。

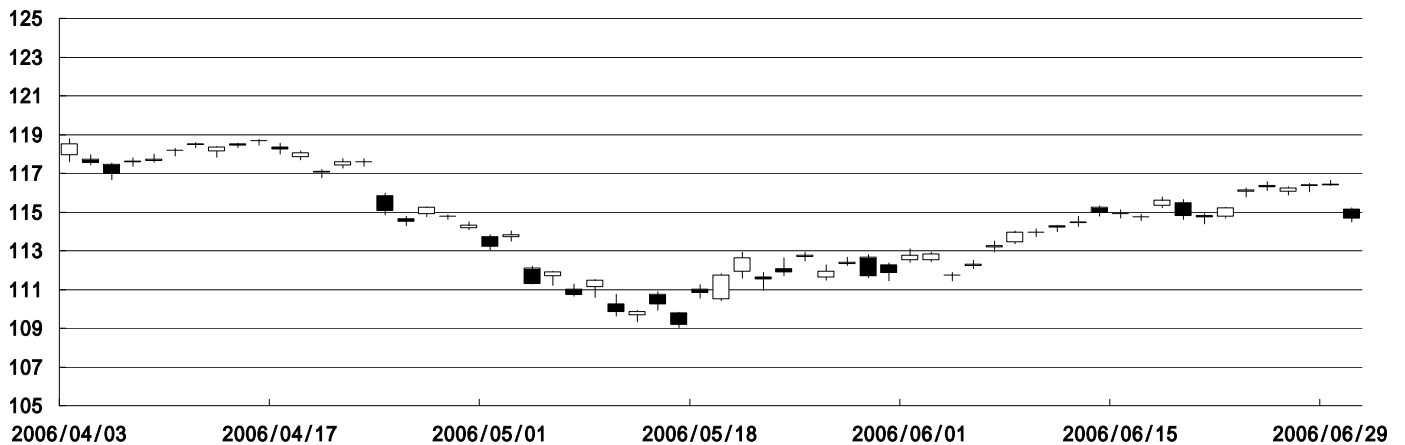
・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
 ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
 ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
 ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

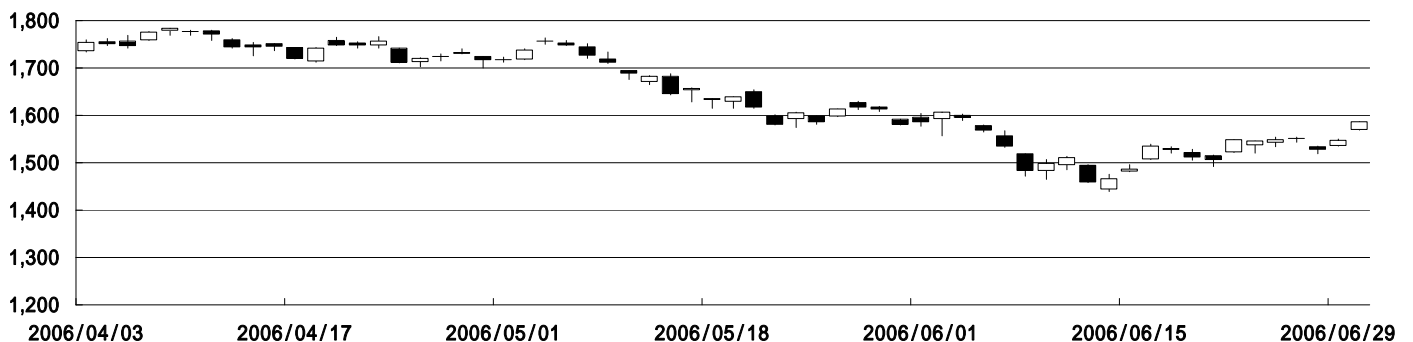
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。